

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	地域密着型の理念は朝の申し送り時管理者職員で唱和している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	近隣の方には季節行事の参加、防災訓練時の参加協力等で積極的に声をかけて来所頂いている、お祭りでみこしを門前で見られた事でも大変喜ばれている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年近隣の方々に行事等の参加で、施設の利用者の方と会話をしたりして、少しずつ理解して頂く事に努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	定期的に会員の方に来所頂き防災訓練や、新しい取り組み等の課題や地域の状況等の情報や率直な意見を活かし向上に、努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の担当者の方と本人の生活状況、サービスケアの報告を伝えたり、相談したりしながら支援に努めている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束行為をしないとの職員統一で支援をしているが、拘束行為を正しく理解し、利用者に安心した生活支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常日頃の支援では精神的面も含めて虐待的行為がない様にとの指導も受けており、共有介助している、身体拘束等も含めた勉強会予定している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は制度の利用者は必要ない状況であるが権利擁護、成年後見制度を学び必要時支援出来る様に努めたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者入所時、利用者家族の方に説明し解らない点等を伺いながら、了解をえて締結している特に利用料等、施設での生活内容でも十分説明し納得を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、行事の時に参加して頂いて意見等を伺っているが、利用者の入所生活状態の感想等の話が多く聞かれている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	職員のヒヤリングを定期的実施、会社への要望、意見等を聞き、内容の尊重で運営等の反映に努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年一回職員とのヒヤリングを実施し各々が働き易い環境づくりに努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修は勤務以外のスタッフが参加できるようにしている。また社外研修ではスタッフの経験年数や力量に合わせて参加の機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会での管理者会議や社外での研修会での意見交換、交流会に参加出来る機会を作っている。、		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の身体、生活状況の把握をしながら、本人、家族と良く話し合い、家族的な雰囲気の中で自由に生活出来る事、外出、外泊自由で自宅の生活と同じ様に、他出来ない部分のお手伝いをさせて頂くのと安心して暮らせる等の説明している、本人には声かけを多くして不安解消に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の身体、生活状況の把握をしながら、家族と良く話し合い、家族的な雰囲気の中で自由に生活出来る事、外出、外泊自由で自宅の生活と同じ様に、他出来ない部分のお手伝いをさせて頂くのと安心して暮らせる等の説明している、本人には声かけを多くして不安解消に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と良く話し合い、状態の把握により、本人、家族が他のサービスの利用が必要と思われた場合には適切な対応に努めていきたい		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る事の手伝い等で一緒に食事作り、洗濯物たたみ、他歌や食事を一緒にする等楽しい雰囲気と共に生活しているとの気持ちで接している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えている関係を築いている	年間行事等(花見、いも煮会、クリスマス会)の参加の案内で本人、家族と一緒に楽しんで頂くことや面会に来られた時に本人の生活状況等を伝え希望を伺ったりしながら居室にて本人、家族とゆっくり話し合ひ配慮に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの市内の商店街、風景、名所等に車輛から眺めたり、遊びに出かけている又、馴染みの面会者も自由に来所して頂き、交流される事を大事にしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の移動の工夫で全体の良好な雰囲気配慮している、他その時々により、職員が良きコミュニケーションをとりながら孤立を感じさせない様に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅に戻られた方がいるので、今後も連携をとりながら、自宅生活の把握で必要な対応に努めていきたい		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組を心がけている。	帰宅願望希望の強い方等、他困難状態のケースに関してはスタッフ会議等で細かく話し合い、職員の支援統一や家族の協力を依頼すること等で、より良い生活が出来る支援に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査時や、入所時に生活歴や最近の状態等本人が望んでいる事等の把握で穏やかな生活が出来る様に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日々の過ごし方は、それぞれに違っておりテレビ、居室、リビングで過ごされたり話し合いや、昼寝する等の把握でその他、身体状態の低下等現状況の把握に努めプランに活かしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書の支援内容を見直しながら、本人の必要な支援とうにより、少しでも生きがいを持って生活出来る様、本人の状態、家族の意向、職員との話し合いの意見等を反映し介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の生活のケア状況での言動、行動等を日々の個別記録を残している、記録の確認と職員からの情報を受けて計画内容の見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の緊急時対応や、家族の状況に応じて、代理受診同行介助等、臨機応変な対応に努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の理髪店に出かけたり、職員と近所のスーパーに出かけ買い物の手伝い、敬老会の参加等で地域の関わりをしながら、住み慣れた所で生活を楽しめる支援に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は家族の協力を頂く様にしているが、入所時に家族の希望で定期受診困難で本人の状態等の主治医の了解を受けられる方に関しては事業所のかかりつけ医院に転院されて受けられる支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃利用者の状態低下、変化時はNS、訪問NSと連携し相談、指示で訪問対応や受診同行等で速やかに安定の確保等に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時は出来る限り院内を訪ねSWとの相談や、NS、家族との連携で状態把握に努めながら極力早期退院が出来る様に支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時、ターミナルケアのあり方を事業所としての方針内容を家族に説明している、利用者がその事が必要時には良く話し合いをし支援する事で了解を受けられている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員間では急変、事故時の対応、応急手当の訓練が未実践の職員も数名いる事で今年度は集団訓練の実施を予定している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は半年に一度地域の参加協力で消防署の指導を受けて、初期消火訓練、夜間火災の想定避難訓練を実施している		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄面の支援等には声かけの工夫で対応している、人生の大先輩との気持ちを常に保ち、ひとり一人にあわせた会話等で接し、対応に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が出来る事の手伝いや、その日に着る洋服等の話しをして本人の意思決定をして、仕事のお願いや、好みの服を着て頂いたりしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の身体状態に合わせて生活をして頂いている。居室で昼寝、テレビ、会話、歌を唄う等、利用者の希望を聞きながら、自由に生活をして頂く事に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の清潔保持に配慮し、鏡を見て頂く様にしており男性の髭剃り、クリーム、乳液の保清等、気に入った洋服を選ばれたり、色彩等の考慮でその方らしさに努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	野菜の下準備や味付けを一緒に行なったり、一緒にテーブルで会話しながら良き雰囲気での食事に努めている、全介助の方とは良きコミュニケーションでの食事に努めている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理食材の利用とメニューの考慮でカロリー(1600)の保持に努め、利用者の状態に合わせて調理(お粥、きざみ、ミキサー)している、水分摂取のチェックを記入し好みの把握で量の確保に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの支援では、声かけの方、促がし誘導一部介助の方、全介助の方等利用者の力量に合わせて毎食後のケアに努めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の状態に合わせての介助により全員がトイレで排泄されている、オムツ使用で重度な方も、1日の排泄時間を設定し全介助でトイレに排泄して頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事は野菜中心で消化の良い調理の考慮と水分摂取、身体を動かす様にして頂いて予防に努めている、他毎日のチェック表を確認しながら、服薬服用での調整にも努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の体調や希望を聞きながら押し付けにならない配慮で支援している、唄を歌ったり、良き会話をして楽しく入って頂く事に努めている、		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室等の証明、温度調整、日光布団干し、湯たんぽ保温等で極力安眠支援に努めている、居室での昼寝で自由に休息もされている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬は個別に日付記入で整理してあり服用済みを確認できている、服薬説明書は個別ファイルに閉じてあり把握につとめている、バイタルチェックは毎日記入し、細かく変化状態の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定期的にボランティアの方の支援で(アコーティオン、オーケストラ、そば打ち会、昔ばなし)等で楽しんで頂いている他、家事仕事、、パズル、懐メロ、ドライブ等の支援に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力で外出される方や、職員支援で車窓から市内見学、少し遠方での、四季の花見、足湯、紅葉、地域の名所等に外出支援に努めている、		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人と家族の意向で一部の方が所持されている他、施設管理で預かっている方で家族、本人からの希望があるときは、状況に応じて使用支援に努めている</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>手紙のやり取りで投函支援している、TELは本人の希望、要望等で自由に会話して頂いている</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>整理整頓、保清、明るく安全、落ち着ける空間等の配慮で穏やかに過ごして頂ける様に努めている</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者がどの場所にも自由に移動出来る様にあえて座席は決めない配慮をしている、極力、利用者全体の状態に配慮し良き雰囲気でも過ごせる様に利用者の行動にも目配り等の支援に努めている</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその</p>	<p>利用者居室は家族の協力を受けながら、自宅生活の雰囲気空間造りに努めているが協力が、難しい方の居室も工夫してその方らしい居室空間に努めている</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室表札、段差解消、手すりの設置、目印等で自力行動で生活出来る様に努めている</p>		